マキノ町の文化財

今津町教育委員会生涯学習課
主査　門野　晃子

はじめに

全国でも珍しいカタカナの町として知られるマキノ町は、滋賀県の北西部、高島郡の最北端に位置します。東・北・西の三方を山に囲まれ、知内川・百瀬川の２大河川によって形成される谷状盆地と沖積平野は、町の中央部から南西部に広がっています。町域には、マキノ・国境という２つのスキー場のほか、マキノ・サニービーチや農業公園ビックランドなど、自然をいかした観光施設が数多く整備され、四季を通じてたくさんの観光客が訪れています。

歴史的にみると、マキノ町は早くから、日本海、琵琶湖を経て京都へいたる重要な交通路が通る地域として発達してきました。古代においては、官道・北陸道の駅の一つである鞆結（ともゆい）駅が設置され、そこには近江・越前の国境に最も近い駅として九疋の駅馬が備えられていたと記録されています。また古代から中世にかけては、鞆結庄、嶮熊野（けんくまの）庄、大処（おおどころ）庄という寺院領の荘園が存在し、近世を通しても、琵琶湖と敦賀を結ぶ七里半街道の拠点の町として発展を遂げました。

こうしたマキノ町には、古くからの歴史を現在に伝える、多くの文化財が残されています。ここでは、その主なものを紹介してみましょう。

平安時代の彫刻

マキノ町には、奈良時代の高僧行基と、「越の大徳」と称される泰澄にまつわる縁起を伝える寺院が多くあります。とくに加賀白山の開創者で、近江一帯にもさまざまな伝承を残す泰澄については、自作とされる仏像が町内に10体もあるなど、その関わりの深さが見受けられます。

もちろん、行基・泰澄にまつわる伝承は、全てが事実であると考えるのは難しく、また泰澄や行基の作といわれる仏像も、奈良時代のものがそのまま現存しているわけではありません。しかし、多くの古代寺院の伝承は、この地域に大変早くから、仏教の文化が流入していたことを示す資料であるといえます。

マキノ町内で、古い時代の仏教文化を伝え

称念寺の薬師如来立像

る資料としては、まず、いくつかの平安時代の仏像があげられます。

上開出（かみかいで）の称念寺の薬師如来立像は、全国的にも珍しい11世紀の造像銘を有することで知られ、国の重要文化財に指定されています。胎内背面の銘によると、延久６年（1069）に仏師源増と手画僧頼円によって造立されたことが分かります。像高は215センチメートルという長身の像ながら、体奥は薄く、左右の張りもおさえられていて、これは一木造という製法上、現材の大きさに制約をうけたものと考えられます。また木の素地をみせた造りで、霊木信仰とのかかわりも考えられています。

また、同じ称念寺には、県の文化財に指定される丈六の阿弥陀如来像が安置されています。檜の寄木造で、平安時代後期には全国的に造像された形式の仏像ですが、湖西地方ではかなり珍しい大作といえます。

称念寺の位置する上開田付近は、平安時代には開出庄と呼ばれる比叡山実相院の荘園があったところで、建長５年（1253）に実相院が焼失したときには、再建のための木材などを調達する造営料所となっていました。康平５年（1062）に建立された実相院には、薬師如来像が安置されていたと伝えられていて、ほぼ同時代に造立された称念寺の薬師如来像とは、当時一般の人々の間にも普及しつつあった薬師信仰を通して、何らかの関わりがあったとも考えられています。

仲仙寺の千手観音立像

上開田の集落の背後にそびえる仲仙寺山の山頂近くに位置する仲仙寺は、現在は浦の地福庵の管理となっていますが、この仲仙寺の本尊であったと伝えられる千手観音立像が平安時代後期の優美な観音像の秀品で、国の重要文化財に指定されています。像高は162.1センチメートルで、十一面四十二臂という、平安時代の観音像には多くみられる形式をもっています。仲仙寺は古くは中善寺とよばれ、浦の「大荒比古鞆結神社文書」によると、天安２年（858）藤原冬嗣の息子・良相と平城天皇の皇子・真如法師がこの地にやってきて、「西の山峯」(白谷の白蓮寺付近）に八王子の神をまつってこれを「北の叡山」と称し、浦の付近は「剣隅之山王」と名づけて山上に千手観音像をまつり「中善寺」と号したと記されています。この文書の真偽は不明ですが、平安時代には既にこの地に天台宗の影響が及んでいたことを推察できる資料といえます。

鎌倉・南北朝時代の彫刻

このほかにもマキノ町には、『興福寺官務蝶疏』に載る古代寺院がいくつか存在しています。海津東町にある最勝寺は、もとは海津の峯山の山頂にあり、泰澄作の千手十一面観音がまつられていたと伝えられています。江戸時代の記録によると山上の堂は「峯観音堂」、里坊は「最勝寺」と称し、山上には本堂のほか、大師堂、仁王門、庫裏などの建物がありましたが、明治時代に火災があり、本堂と庫裏が里坊である最勝寺の場所に再建されたといいます。

この、現在の最勝寺にまつられる、釈迦・阿弥陀如来坐像は、同一作者による一具の作で、平安時代の藤原様式を継承する、鎌倉時

代前期の仏像であると考えられています。

また、桜の名所で知られる海津大崎の山ろくに位置する、大崎寺にも鎌倉時代の優れた彫刻が伝えられています。本尊の右脇侍とし

安土城の残材が使われる大崎寺の阿弥陀堂

てまつられる毘沙門天立像がそれで、13世紀の作品と推定されています。大崎寺は、『興福寺官務蝶疏』によると、大宝２年（702）に泰澄によって開かれ、小野篁が中興したとされています。寺伝によると、応永以降、坊舎が大破していたのを天文５年（1536）に空翁法印が再興し、このときに真言宗に改宗、その後、豊臣秀吉の時代に血痕の残る安土城の残材をつかって修復を行ったと伝えています。

海津中小路町の宗正寺には、南北朝時代の十一面観音坐像が本尊としてまつられています。この像は、理知的な面貌や厚手の衣褶の表現、切金や盛上彩色を多用する工芸的な作風など、南北朝時代の典型的な様式をもっていて、国の重要文化財に指定されています。宗正寺は、寺伝によると、往古この場所に比丘尼御所があり、尼宮の発願で堂を建立し観音菩薩を安置したことが始まりであるとされています。この寺には、その後も湖北の浅井家や豊臣家ゆかりの女性が入寺して尼となっていたことが伝えられ、現在も、寺には豊臣家に仕え、元和元年（1615）の大阪城落城の際に、淀君・秀頼母子とともに自害した饗庭局の位牌などがまつられています。

海津天神社の文化財

建久２年（1191）の勧請と伝えられる海津天神社には、数多くの文化財が伝えられています。

法華経８巻に無量義経（開経）・観普賢経（結経）の２巻を合わせて10巻１具として伝来する装飾法華経開結共10巻は、平安～鎌倉期の様式を示し、国の重要文化財に指定されています。装飾経とは、法華経に説かれる経典を供養するという教えによって作られるもので、経典の表紙や見返しに絵を書いたり紙に模様を描いたりして、その上に金銀の箔や砂子を散らして装飾するというものです。海津天神社に残される装飾経も、金銀の箔を散らした華麗なもので、湖西地域に残る貴重な法華経の遺品であるといえます。また、神社にはこの装飾経のほかにも、いくつかの経典が伝来していて、そのうち紺紙金字法華経開結共10巻は、紺紙の表紙に金銀泥で宝相華唐草文を描き、見返しには釈迦説法図、上段には鷲頭形の山を中心に遠山を配し、下段には各巻の経意を表した経意絵を描いたもので、鎌倉時代前期の作と考えられています。またほかに紺紙金字心経并阿弥陀経一巻なども伝来していて、これらは神社の来歴やこの地域の仏教文化を考える上での貴重な資料であるとされています。

このほか、海津天神社には、桃山時代から

海津天神社

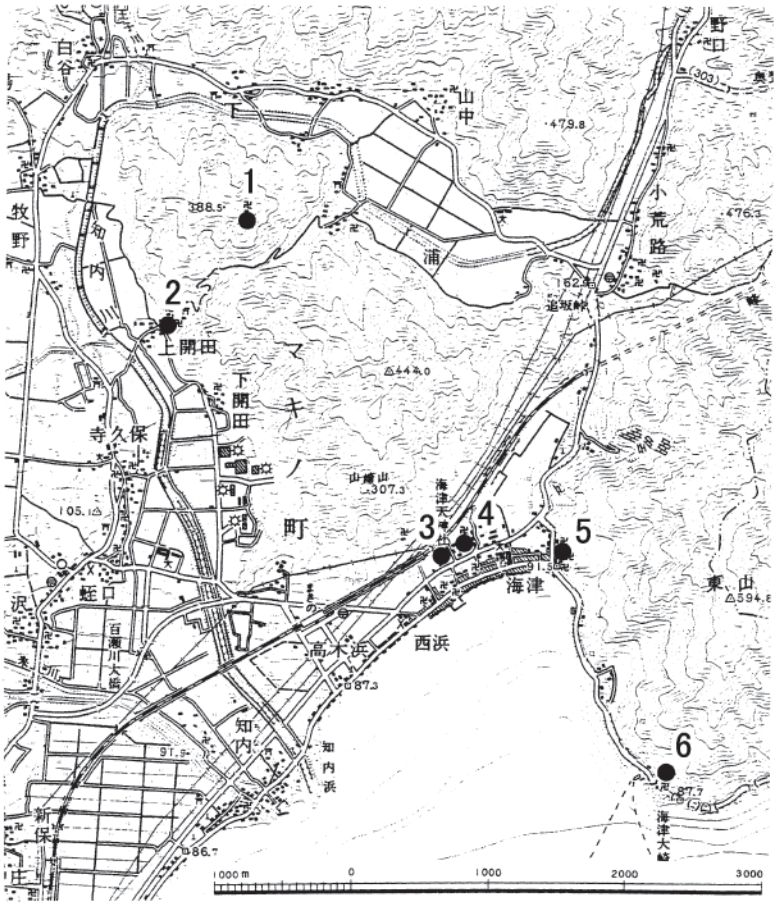
江戸時代にかけて京都を中心に活躍した狩野山楽が描いた有名な絵馬２面が所蔵されています。板地に金箔を押し、その上に彩色をして繋馬１対を２面に描いたもので、１面には前脚の片方を高く上げる動的な姿の白馬、もう１面にはややうつむき加減で前脚と後脚の片方を軽くあげる姿勢の茶色の馬が描かれています。いずれも均整のとれた姿が現され、馬の画を得意とする山楽の代表作の一つといわれています。絵馬は、寛永２年（1625）２月、福富藤衛門によって奉納されたもので、県の文化財に指定されています。

また、海津天神社の祭神である菅原道真に関連する天神図も、見逃すことのできない文化財の一つです。神社に伝わる室町時代の天神図は、冠をかぶり、黒い束帯を着し、両手で笏をもつ一般的な形式で、その容貌は怨霊と化した怒りを込めた表情に描かれています。天神図は、日本古来の御霊信仰のうえに菅原道真の霊を関係付けて描かれたもので、古くは怒りを込めた像容が多く描かれましたが、後には天神を学問の神、文学の神とする信仰が広く流布し、穏やかな容貌の画像も数多く制作されました。海津天神社にもう１幅伝来する天神図は、菅原道真が東福寺の聖一国師のすすめで入宋し、金襴の袈裟を授けられたという伝説にもとづいて描かれた渡唐天神像で、画風に禅宗の影響がよくあらわれた作品といえます。

おわりに

古くから交通の要衝、寺院の荘園領、幕府御料所、街道の拠点、などとして発展してきたマキノ町には、その数々の歴史を物語る多くの文化財が残されています。これらの文化財の多くは、現在も地域の人々の熱心な信仰によって、ひっそりと大切に守り伝えられています。

こうした文化財を、これからも、地域の良さと共にいつまでも保存し、守り続けることが、現代の私たちに課せられた使命だといえるでしょう。



１．仲仙寺　２．称念寺　３．海津天神社　４．宗正寺　５．最勝寺　６．大崎寺

マキノ町文化財分布図

滋賀文化財教室シリーズ　No.204号

発行年月日　2002年12月25日

編集・発行　財団法人 滋賀県文化財保護協会

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2

TEL(077)548-9780 FAX(077)543-1525